私のボランティア体験

① 今回の依頼を頂いで、振り返ってみると、20 年前、ウルトラキッズ体操クラブを立ち上げた時から始まる。その時はボランティアと言う意識はなく、立ち上げたものとして代表、会計、施設の予約までしていた。この後、公民館の母親学級の講座を受講したころから、家族でいろいろな講座を受講し、自分の学びの場として利用してきた。
② その後、公民館で社会教育指導員をさせていただき、学びの活用の場、新たなつながりを作っていくことになった。その中で課題となったことは、公民館という公の場への若者の参加がほぼないことであったが、解決することが出来ないまま、退職した。
③ 息子が中学三年生の修学旅行で、沖縄の子どもたちと交流することになり、興味を持ち、ネットで調べていった。その交流先の活動は、解決できなかった課題を解決できると思い、学校へ相談をかける。先生方は学校教育と社会教育の連携と捉え、惜しみない協力をしてくださった。それが、今の「表現倶楽部うどぃ」である。

地域社会に出るためには、３つの段階があると考える。ホップ、ステップ、ジャンプである。ホップは自分のための学び（私の場合①）。ステップはその学びの活用と仲間づくり（②）。ジャンプは誰かのためにである（③）。

ボランティアは、してあげるのではなく、自分も楽しみながら誰かのお役に立て、感謝されることが次の原動力になる。

このような場で心がけていること（守っているとは言えないが）

・常に感謝する心を持つ（謙虚に）
・誰に対しても公平な目線で向き合う
・相手の立場に立てる余裕を持つ
・常に自分は 100%を意識する
・相手には 100%を求めない。